

佐野短期大学シラバス2014

| 科目名 Course Name | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|---|------------------------|----------------------|-------------------|
| 介護の基本 IV Fundamentals of Care IV (Re-habilitation) | 2年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 (介護福祉士養成課程 必修) | 介護福祉士養成課程2年生のみ履修可 |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | |
| 特になし | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | |
| 介護福祉士資格取得に必要な科目 | | | |
| 担当者に関する情報 | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | 電話番号・メールアドレス |
| 大塚 智 | 講師室 | 授業で説明します | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | |
| 本講義では以下のことを中心に行う。 (1) リハビリテーションの定義と理念に関する基本 (2) リハビリテーションの各分野と実施体制 (3) リハビリテーションの実施方法 (認知症・脳血管障害・虚弱高齢者などのリハビリテーション) (4) 障害者の自立と社会環境整備 | | | |
| 授業の目標 | | | |
| (1) リハビリテーションの理念と基本原則、新しい動向、正しい知識を習得できるようにする。 (2) 障害とその影響について説明できるようにする。 (3) リハビリテーションの展開過程や、自立支援の基本が説明できるようにする。 | | | |
| 授業の方法 | | | |
| 基本は、板書を中心とした講義形式で行うが、コミュニケーションの取り方、実際の接し方など臨床に則した内容で具体的にリハビリテーションを理解できるようにする。内容によっては実技形式、グループディスカッション形式を取り入れる。 | | | |
| 学習の成果 (学習成果) | | | |
| ①リハビリテーションの本来の意味を理解し、介護福祉士の職域、職責を明確にすることができる。 ②疾病や症候別の障害に対する特徴を理解を深め、個別の介護が過不足無く的確に施行できる。 ③家族や社会資源を考慮した相談、家庭環境の改修など、単なる本人への介護実践だけでなく社会の中で生活していくための総合的な知識を身に付けることができる。 ④他職種への対応、患者・利用者への接し方など社会人としての節度ある態度を身に付けることができる。 | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | |
| 第1回目 | イントロダクション リハビリテーションとは | | |
| 第2回目 | リハビリテーションの理念 | | |
| 第3回目 | リハビリテーションの目的 | | |
| 第4回目 | リハビリテーションの範囲・対象 | | |
| 第5回目 | 障害の概念 ・ (第2 - 5回の小テスト) | | |
| 第6回目 | リハビリテーション医療の流れ | | |

| | | | |
|-------------------------|--|-----|---|
| 第7回目 | リハビリテーション医療の組織 | | |
| 第8回目 | ADL (日常生活活動) と QOL (生命の質) ・ (第6 - 8回の小テスト) | | |
| 第9回目 | 症候別に考えるリハビリテーション I (脳血管障害) | | |
| 第10回目 | 症候別に考えるリハビリテーション II (精神障害: 認知症) | | |
| 第11回目 | 症候別に考えるリハビリテーション III (虚弱高齢者) ・ (第9 - 11回の小テスト) | | |
| 第12回目 | 施設におけるリハビリテーション | | |
| 第13回目 | 地域におけるリハビリテーション | | |
| 第14回目 | 福祉用具と補装具 ・ (第12 - 14回の小テスト) | | |
| 第15回目 | リハビリテーションにおける今後の展望 | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| | 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| | 授業参加態度 | 50% | 高齢者や障害者の身体介護、生活援助、相談・助言を中心に行う職業であり、社会性が大きく問われる。授業を聞く姿勢として介護のプロフェッショナルとしての社会性、態度を重視する。 |
| | レポート | | |
| | 調査報告書 | | |
| | 小テスト | 40% | 小テスト1回を10%として加算する。有資格者・プロフェッショナルとしての基本的知識の有無を確認する。 |
| | 試験 | | |
| | 発表内容 (態度含む) | 10% | リハビリテーションチームの一員としての意見を専門職の立場から発言できるようにする必要がある。自己の考えを明瞭に主張できるか確認する。 |
| | その他 | | |
| 教科書と参考図書 | | | |
| 別途指示 教科書は用いず資料を中心にする予定。 | | | |
| 履修上の留意点・ルール | | | |
| 無断退室を禁ずる。 | | | |